2018/2019 シーズン　2019 年 1 月 24 日

横浜市インフルエンザ流行情報　7 号

横浜市健康福祉局健康安全課　／　横浜市衛生研究所

【警報発令中】報告数がさらに増加しています。

【概況】

2019 年第 3 週(1 月 14 日～20 日)の定点※1 あたりの患者報告数は、横浜市全体で 56.08 となり、警報発令基準(30.00)を上回った前週の 36.08※2 から増加し、今シーズンで最も多くなっています。

学級閉鎖等は、第 3 週で 166 件(保育所・幼稚園 16 件、小学校 115 件、中学校 30 件、高等学校 5 件)と急増しています。保育園での集団発生の報告も増えており、お子さんがいるご家庭での感染予防が重要です。

また、病院や高齢者施設等での集団発生の報告も増加しています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

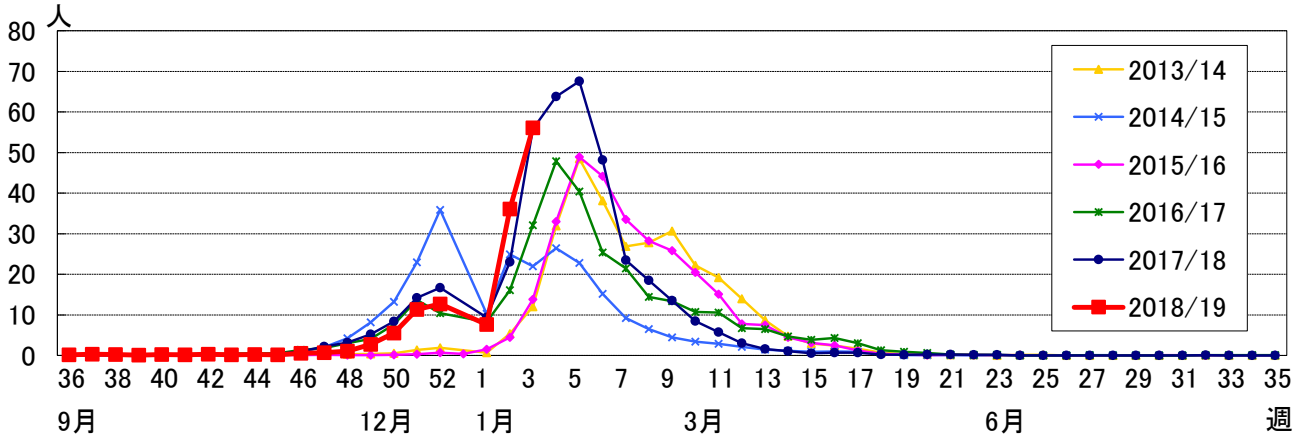
年末から小児と高齢者の入院患者が増加し、重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者も増加しており、インフルエンザ脳症疑いの患者も報告されています。

今シーズンの第 3 週までの迅速診断キットの結果は、累計で A 型 99.6%、B 型 0.4%と、A 型が多く検出されています。全国のウイルス分離・検出状況※3 では、AH1pdm 型、次いで AH3 型が多く検出されており、横浜市も同様の傾向です。

インフルエンザの本格的な流行に入っており、正しい手洗い※4 等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策※5 が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。
※3 インフルエンザウイルス分離・検出報告数(国立感染症研究所、2019 年 1 月 23 日作成)
※4 横浜市保健所ホームページ(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)
※5 市民向けインフルエンザ予防チラシ(横浜市)

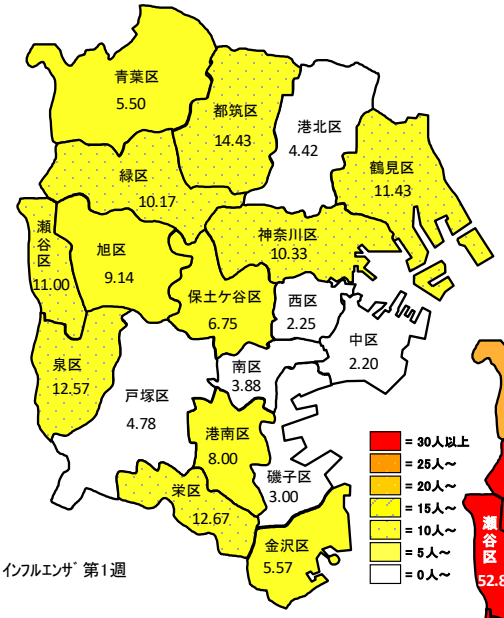
1　市内流行状況：市全体の定点あたりの患者報告数は、第 3 週(1 月 14 日～20 日)で 56.08 となり、流行警報発令基準(30.00)を上回った前週の 36.08※2 から増加しています。



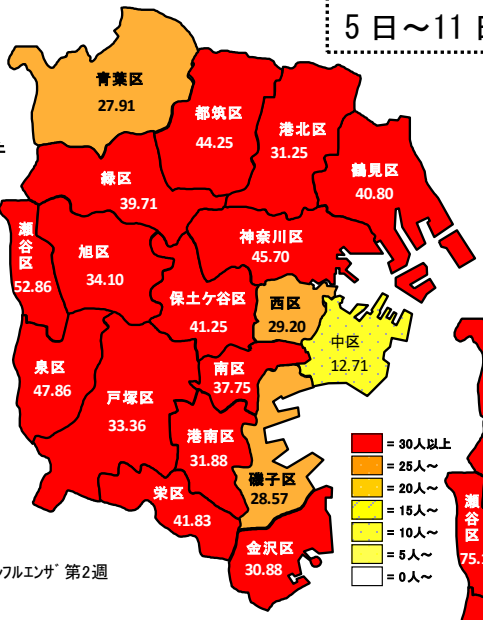
2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況（塗り分けの数字は定点あたり報告数）

第 3 週現在、18 区中 17 区が 30.00 を上回っています。

昨シーズンは第 3 週（2018 年 1 月 15 日～21 日）で流行警報が発令され、第 5 週（1 月 29 日～2 月 4 日）でピーク（67.58）となり、第 10 週（3 月 5 日～11 日）に解除されています。

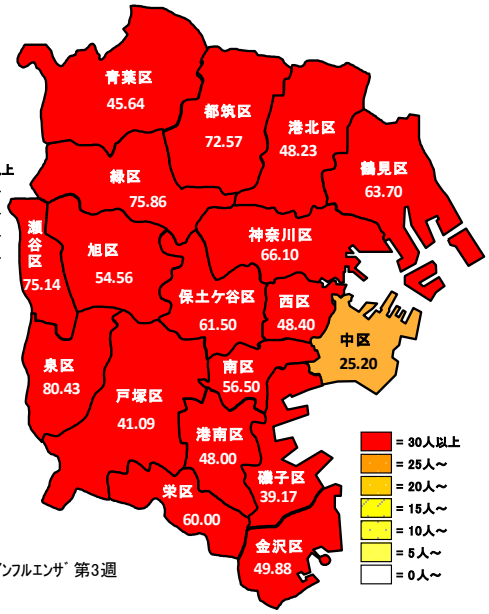


≪市全体≫
第 1 週　7.66※2

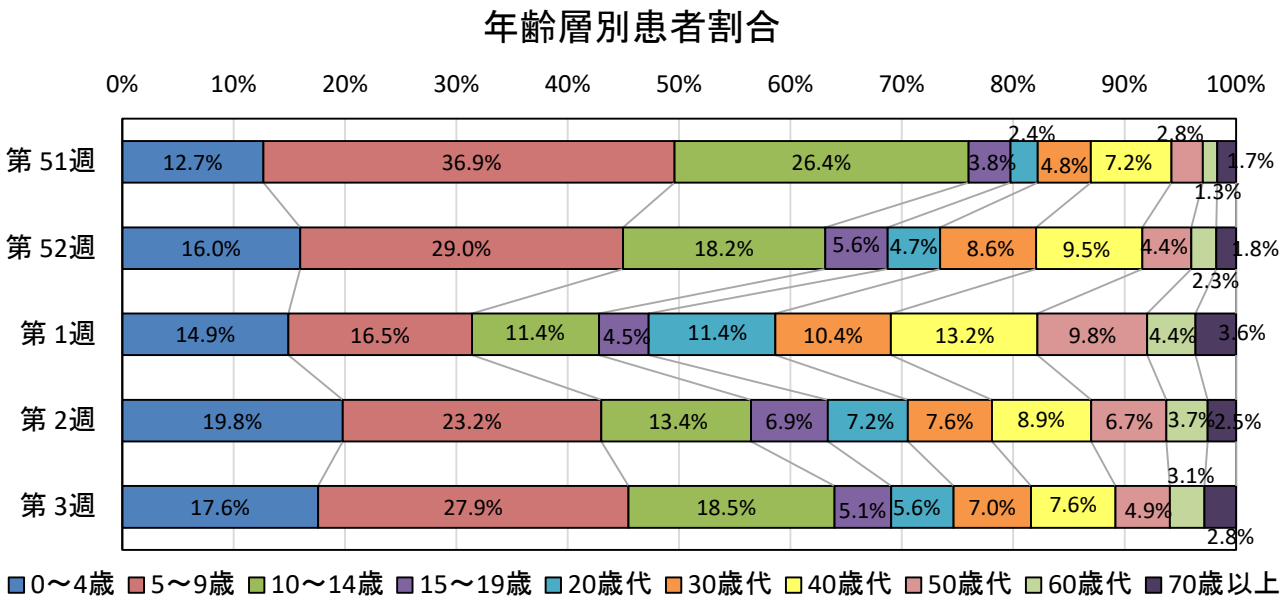


≪市全体≫
第 2 週　36.08※2

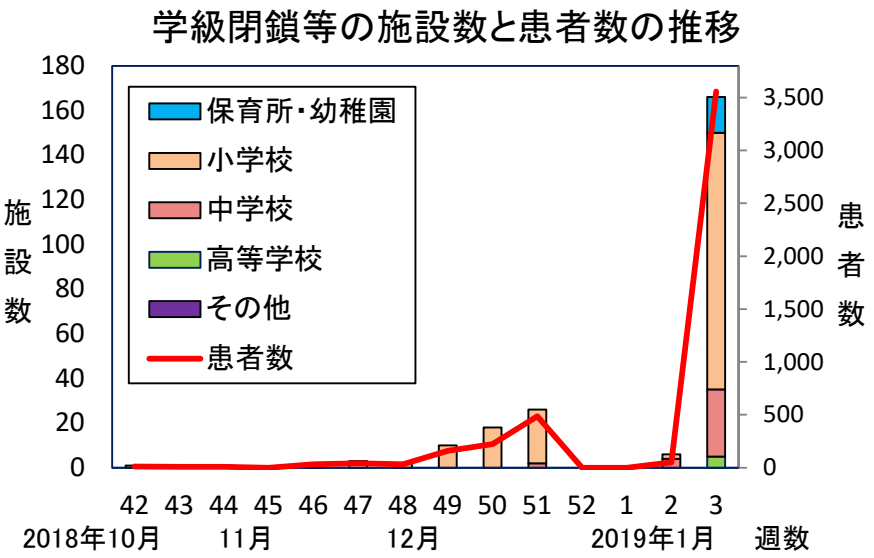
≪市全体≫
第 3 週　56.08

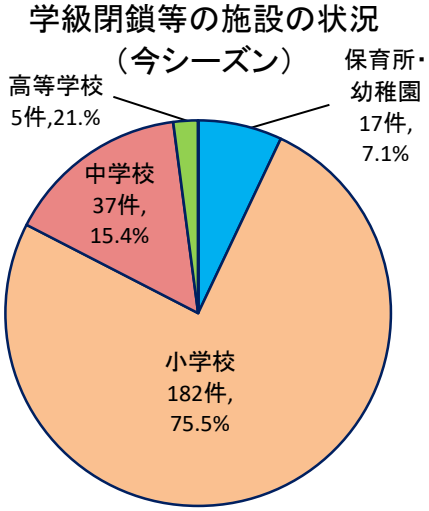


3 年齢層別集計：第 3 週の患者年齢構成は、5 歳未満が 17.6%、5 歳から 10 歳未満が 27.9%、10 歳から 15 歳未満が 18.5%となっており、10 歳未満が全体の 45.4%、15 歳未満が全体の 63.9%を占めています。



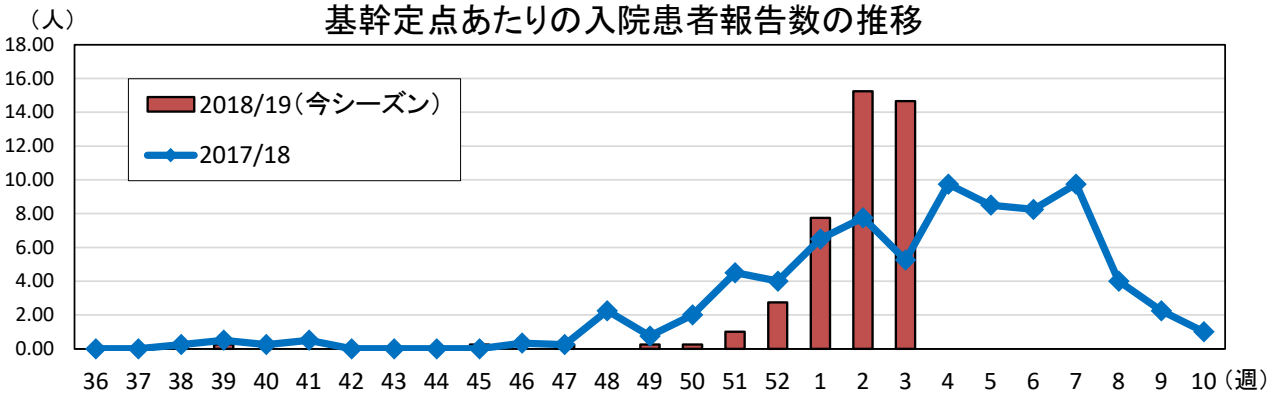
4　市内学級閉鎖等状況：第 3 週は 166 件（保育所・幼稚園 16 件、小学校 115 件、中学校 30 件、高等学校 5 件）と急激に報告が増加し、報告された患者数は 3,555 人でした。今シーズンの報告は累計 241 件、患者数は延べ 4,657 人となっています。

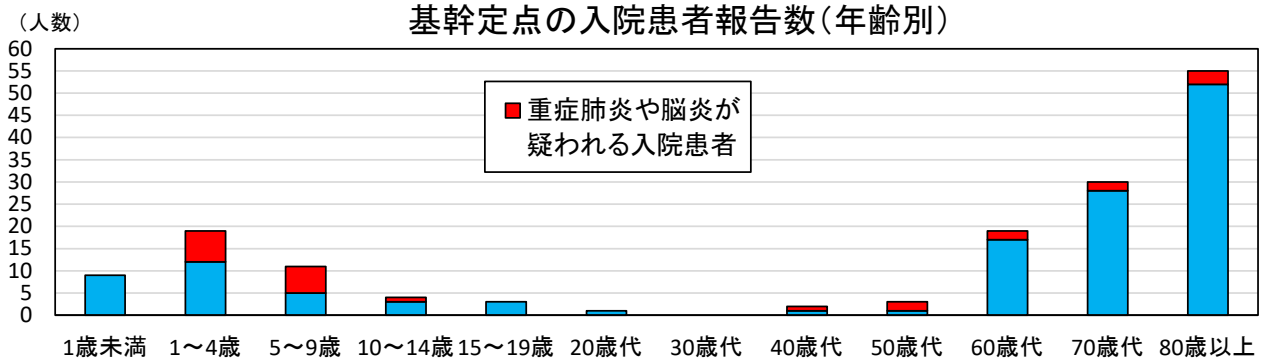




5　入院サーベイランス：市内基幹定点医療機関※6 におけるインフルエンザ入院患者は、第 3 週で 44 人の報告があり、今シーズンは累計 156 人となりました。入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第 3 週で 4 人の報告があり、累計 24 人となりました。

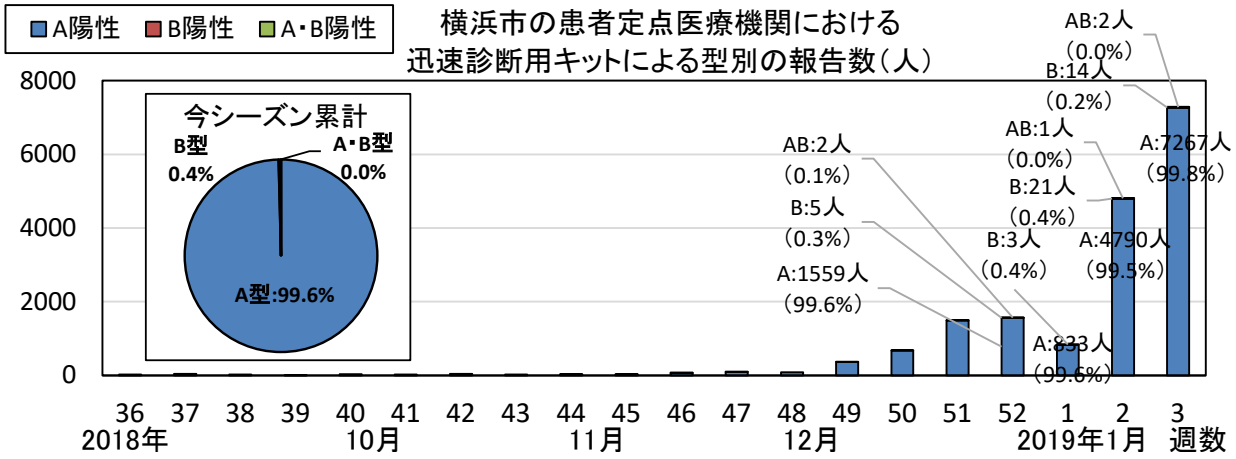
※6 基幹定点：患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。





6　インフルエンザ脳症：第 3 週で 10 歳未満および 40 歳代のインフルエンザ脳症疑いの報告が 1 件ずつありました。市内での報告は今シーズンで 3 件となりました。

7 迅速キット結果：第 3 週の迅速キットの結果は、A、型 99.8%、B 型 0.2%、AB 型ともに陽性 0.0%で、A 型が多く検出されています。今シーズン累計では、A 型 99.6%、B 型 0.4%、A・B 型ともに陽性 0.0%となっています。



8 薬剤耐性変異スクリーニング検査：平成 30 年 12 月に横浜市内の小学校 2 校で発生したインフルエンザ集団事例の検体 6 検体のうち、2 検体から新規抗インフルエンザ薬バロキサビルマルボキシル（商品名ゾフルーザ）に対する感受性低下ウイルスを検出しました※7※8。

現在の状況は、抗インフルエンザ薬バロキサビル マルボキシルを服用した患者の中で、投薬をきっかけに当該治療薬への感受性が低下した変異ウイルス（薬が効きにくいタイプの変異ウイルス）が選ばれ、出現した状況です。感受性低下ウイルスが地域内で流行しているということではありません。

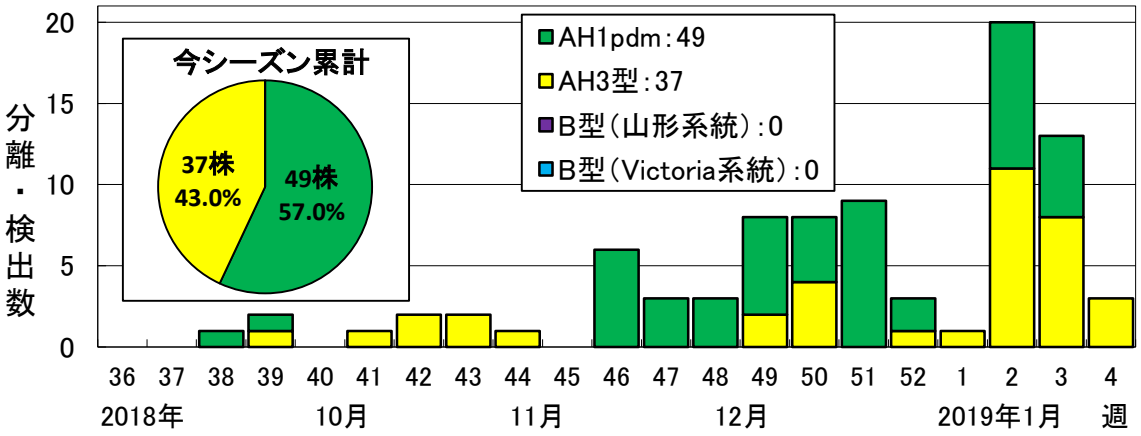
※7 新規抗インフルエンザ薬バロキサビル マルボキシル耐性変異ウイルスの検出（国立感染症研究所）
※8 横浜市内でのゾフルーザ感受性低下インフルエンザウイルスの検出について（横浜市衛生研究所）

9 市内病原体検出状況：市内では病原体定点※9 から AH1pdm（49 株）、AH3（37 株）、B（0 株）が分離・検出されており、AH1pdm が多く分離・検出されています。全国の分離・検出※2 も同様の傾向と考えられます。

※9 病原体定点：採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

（2019 年 1 月 23 日現在）



※参考リンク　近隣自治体の流行状況　○神奈川県　○川崎市　○東京都
全国の流行状況　○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】　横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045(671)2445
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045(370)9237